

第 43 回奈良市文化振興計画推進委員会 会議録

開催日時	令和 7 年 3 月 10 日（月） 午前 10 時～11 時半まで	
開催場所	奈良市役所北棟 202 会議室	
議題	1. 開 会 2. 会長挨拶 3. 議 事 （１）令和 6 年度事業視察について 4. 報告事項 （１）令和 6 年度主な事業の実施状況について （２）奈良市文化振興事業補助金について 5. その他	
出席者	委員	萩原会長、山下副会長、上田委員（オンライン）、小野委員、島委員、風間委員、 松下委員、関根委員 【計 8 人出席】
	事務局	（文化振興課） 森課長、荒益課長補佐、吉川課長補佐、徳山総務係長、奥村振興係長、仲川、守道
開催形態	公開（傍聴人 0 人）	
決定事項	・ 今回の会議録の署名は、萩原会長と関根委員が行う。	
担当課	市民部文化振興課	

議事の内容

- 1.開会
- 2.会長挨拶
- 3.議事
 - （１）令和 6 年度事業視察について

資料 2 を用いて、令和 6 年度事業視察対象事業概要を説明。

奈良市美術館事業については、後日視察予定。

〈各視察委員からの評価〉

【グリーン・マウンテン・カレッジについて】

 - ・ グリーン・マウンテン・カレッジが人材育成の場として機能し、異業種の人々、まちづくり関係者や子ども
の支援関係者など、多様な人々の交流の場となっている点が印象的だった。こうした出会いから新たな
協働事業の構想が生まれ、たき火を囲んでの対話が非常に効果的に機能していることが実感された。
 - ・ 文化振興と経済の連携という視点では、このイベントが直接的な消費や経済効果を生むことは難しいもの
の、訪日観光客がたき火を囲む風景を目にし、それ自体が奈良の文化資産となる可能性があるようにも感
じる。奈良市として、この風景や文化的な自主活動を奈良の魅力として発信することで、経済とのつなが
りを生む可能性があると考えられる。

- ・集まる人々の記録や成果を残すことも重要であり、参加者の目的や背景を把握し、評価を記録する仕組みが求められる。その点についても協力できることがあれば、ぜひ支援したい。

【根本 知^{きとし}の仕事～源氏物語から現代のかなへ～について】

- ・書だけでなく道具や写真も総合的に見せ、伝統工芸との関連を活かした新しい試みが興味深かった。特に奈良は和紙や、筆などの伝統工芸が根付いており、それらを新しい感覚で展開する意義が感じられた。
- ・施設のアピール方法には検討の余地がある。「奈良市杉岡華邨書道美術館」という名称は特に若い世代に敷居が高く感じられる可能性があり、親しみやすい名称への変更が新たな層へのアプローチに繋がるだろう。

【ならまちワンダリング『からだ・あそぶ・よろこぶ』について】

- ・民具を活用したプログラムでは、参加した子どもや通行人が、丸太を^{はつ}研る体験や、民具を用いたボーリングなどに取組み、交流が生まれる様子が印象的であった。こうした体験の価値は、子どもたちが大人になってから気付くことが多いため、長期的な視点で評価されるべきである。単年度の事業評価であるが、その点を考慮する必要がある。
- ・小さな子どもと大人が中心であったため、小中高生のボランティアが加わるとさらに内容が充実すると感じた。
- ・日本社会は 1970 年頃を機に大きく転換し、生活様式が変化していった。そうした時代の経験を持つ世代が少なくなっていく中で、歴史をつなぎ、身体を使って営む暮らしの在り方を伝えることは重要である。さまざまな分野の人々と協力しながら取り組む本プログラムは、奈良ならではの意義を持つものであり、今後もさらに深めていくことが望まれる。

【根本 知^{きとし}の仕事～源氏物語から現代のかなへ～について】

- ・NHK が放送したドラマ「光る君へ」と関連した展示があり、平日午前中にも関わらず多くの来場者があり、新たな層へのアプローチが感じられた。体験コーナーや英語表記のパンフレットもあり、訪日観光客にも対応できていた。
- ・学芸員による案内の内容がとても充実しており、現代の作家紹介や杉岡華邨氏の作品を通じた探求が面白かった。今後は学芸員の人数増加や育成に取り組んでほしい。
- ・学芸員の解説には興味深いものが多かったため、何か持ち帰ることができるまとめられた冊子があればよい。
- ・旧ウェブサイトの削除を。

【青少年と創る演劇 Lite について】

- ・昨年の市民参加型ラーニングプログラムで作成された脚本を活かした上演であり、演劇体験が若い世代に繋がっている点が大変面白かった。
- ・ならまちセンターのエントランスの使い方が非常に効果的で、アートの視点を育む良い演出だったと感じた。今後も青少年に演劇を通じて関わり続ける活動が必要である。

【暮らしに芸術の感動を届けるプロジェクトについて】

- ・音楽を通じて市民に感動を与える良い取組みで、高く評価できる。費用対効果については、1 人当たりのコストが不明確だった。
- ・今後、音楽イベントが文化的な意義を持ち、市民の関心を高めるために、参加者や提供者の意見を把握するためのアンケート調査が重要である。全体としては評価できるので、引き続き事業を続けてほしい。

〈委員からの意見〉

- ・現場で活動しているアートマネージャーやスタッフの存在は非常に貴重であり、特に地方都市ではアートマネジメントができる人材が不足していることが多い。奈良において、アーティストを呼び込み、現場を動かす人々を確保するためには、コミュニケーションや資金面の対応だけでなく、これらの人材をどのように支え続けるかが重要である。また、秋田のように秋田公立美術大学の人材育成が地域の文化や街の変革に繋がっている例からも、人材育成の重要性が浮き彫りになっており、施策として人材の確保と育成を重視するべきだと感じている。
- ・アートマネジメントの現場での経験則と行政の仕組みが合わないという課題は、奈良市に限らず多くの地域で見られるものである。円滑な運営環境を整えるためには、文化振興課をはじめとする市の関係機関が行政のルールと現場の実情を調整することが求められる。
- ・アートマネージャーの施設運営について、施設管理者とどの程度連携がとれているか気になった。アートマネージャーが主体的に企画を進めたものが地域に広がる後押しのネットワーク作りを支援することが必要である。
- ・「奈良市杉岡華邨書道美術館」の名称の見直しは良い案であると考えられるが、実際に書道を学んでいる人々が訪れていることも事実である。杉岡華邨氏が館設立のために多大な私財を投じていることを踏まえると、名称を変更することは難しいと思うが、サブタイトルに工夫を加えるなど、何かアイデアがあればいいと感じた。
- ・限られた人でなく、広く普及することも大事なので、名称による制約されるイメージを取り払うことも検討するべきだと考える。
- ・SNSの影響が大きく、現代の社会では、名称に対して非常に敏感になっている。名称の検討は非常に貴重な意見だ。入江泰吉記念奈良市写真美術館に関しても、見直しを図ることで、より広がりを生む可能性があるかもしれない。
- ・施設の運営において、人件費などの予算が大きな問題であり、予算がなければ事業は進められない。知恵だけでは解決できないと感じている。広報やマネジメントなどの業務を、複数の施設を一括し見ることが出来る人材が1人いるだけでも大きな違いを生むのではないかな。
- ・現場のアートマネジメントに関わる人材の育成は非常に重要である。個別事業に熱心に取り組んでおられるが、事業担当者同士の反応やどのような課題を感じたなど見えづらいところがある。そのため、交流を促進し、共通の課題を見つけ出すことが大切である。横の連携を強化することで、新たなアプローチが見つかる可能性があり、文化振興課でその支援を検討することが必要である。
- ・グリーン・マウンテン・カレッジのようなリベラルアーツの拠点を継続的に運営することで、新たなアートマネジメントの可能性が広がると期待される。また、現代の大都市では町の中心で火を焚く場所は珍しく、お水取りのような行事が奈良の文化として定着していることを考えると、このような文化が奈良のアイデンティティの1つとして浸透していくことが望ましい。

4.報告事項

(1) 令和6年度主な事業の実施状況について

資料3を用いて、令和6年度主な事業の実施状況を説明。

〈委員意見〉

・アートマネジメントコーディネーターの人材育成プログラムが実施されているが、育成された人材が行政や各施設のイベントに自発的に関われる仕組みを整えることで、プログラムの実効性が高まり、より活用されるものとなる。資格取得にとどまらず、現場での実践につなげる仕組みの構築が求められる。

・PRタイムズの運用はいつからか。

→運用自体は市全体の取組みとして開始され、文化振興課でも今年から活用を始めた。約260の媒体へ自動的に配信される仕組みとなっているが、具体的な成果の検証には至っていない。

・なら100年会館こどもお能グループは100年会館のどこで稽古しているのか。

→小ホールか中ホールのどちらか空いている場所で毎週月曜日開催している。

⇒奈良はお能の発祥地であるため、より気軽な形で広めていけるような機会が各所にあることが望ましい。

・人材育成プログラムの参加者がその後どのような活動をされているのか、追跡調査の実施や情報の共有が可能であれば、ご提供いただきたい。

→人材育成プログラムの「文化芸術を育てるお金の話」は、補助金活用事業者を対象に報告提出や講演支援を行っている。今回は事業未実施の参加者もあり、今後の資金調達の参考となり次年度の募集につながることを期待される。

⇒協力依頼や育成した人材が活躍できる場を提供するため、将来的な登録制度の検討が必要である。今回は既に活動中の方が多かったが、今後の展開に期待したい。

(2) 奈良市文化振興事業補助金について

資料4を用いて、奈良市文化振興事業補助金について説明。

〈委員質問〉

・前年度から予算が減少した分は今後影響を与えるのか。

→今回のスタートアップに関しては、財源が一定確保されている中で基金を取り崩しながら実施している。

現時点では影響はないが、基金がなくなった場合、当課がこのスタートアップの支援をどう評価するかにより、影響が出る可能性がある。

・スタートアップの基金はいつまでもつのか。

→現在、約200万円の基金があり、1件20万円で10件分実施可能。ただし、来年度以降は制度変更の可能性がある、コンパクトにすれば期間延長も可能。しかし、企業版ふるさと納税で入った基金は早期執行が必要なため、今後検討する必要がある。

・スタートアップに限らず、これは団体が応募資格になるか。

→現在の制度では団体として事業を行っていることが条件であり、実行委員会形式でも問題ない。

⇒コーディネーターを養成した中で、その人たちにグループを作ってもらい、全く新しい事業を一つ実施するという形も考えられる。これまでの発想とは異なり、コーディネーターが実行委員会を作り、新しい文化事業を行うことで、人材育成と活用につなげることができる。こうした異なる方向からの検討も必要である。

- ・展示準備中で予算が足りず助成金を探しているが、団体専用の助成金が多く、個人活動のアーティストには予算獲得が難しい。民間の財団で行う助成金には個人が集中し、競争が激化している。奈良市の財源や基金では難しいことは理解しているが、個人活動のアーティストにはニーズがある。
- ・自治体が行うことは難しいと思うが、静岡県文化芸術活動支援を調べると、アーツカウンシルしずおか（公益財団法人静岡県文化財団）が間に入って10分の10助成を行っている。全額助成という形の支援もあり得るのでは。

→10分の10助成とする場合、公共性の有無や、個人の私的活動ではなく社会課題とどう結びつくのかが問われる。

5. その他

奈良市音声館 施設活性化方針について

資料5を用いて、奈良市音声館について説明。

以上、議題終了